

「第5期みやぎ観光戦略プラン中間案」に対する県民の意見提出手続き（パブリックコメント）の結果と、県民の皆様からお寄せいただいた御意見に対する宮城県の方針について

令和4年8月15日

宮城県では、「第5期みやぎ観光戦略プラン中間案」について、令和4年3月22日から4月21日までの間、ホームページ等を通じ県民の皆様からの御意見等を募集しました。

この結果、貴重な2件の御意見を頂きました。

頂きました御意見等につきましては、このプラン策定の参考とさせていただきます。御協力ありがとうございました。

お寄せいただいた御意見と御意見に対する県の方針

No	お寄せいただいた御意見	御意見に対する県の方針
1	<p>◆官民が一体となった観光誘客活動について</p> <p>宮城県は、平成25年の仙台・宮城デザインキャンペーンの開催を契機として、「笑顔咲くたび 伊達な旅」のキャッチフレーズのもと、東日本大震災からの観光復興を強力に進めるため、官民一体で観光誘客に取り組んでまいりました。</p> <p>特に、地域の観光資源の発掘、磨き上げから、誘客活動までの官民一体による一貫した取組はこれまで多くの関係者によって培われてきた宮城県の観光の根幹であり、今後もしっかり引き継がれていくことによって「笑顔咲くたび 伊達な旅」のブランド化に寄与するものと考えております。</p> <p>新型コロナウイルスの影響によって旅行形態が大きく変わり、新しい観光戦略プランに基づく施策の実施は大いに賛同するところですが、宮城県の観光振興の根幹である「官民が一体となった観光誘致の取</p>	<p>東日本大震災からの観光復興については、これまで数多くの観光事業者の方々、各市町村及び県が一体となって、誘客促進などの取組を行ってきたことにより、平成29年の観光客入込数が、震災以前の平成22年を超えるなど、一定の成果を挙げることができ、これまでの御支援・御協力に感謝申し上げます。</p> <p>現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によって、県内の観光需要が大きく落ち込み、観光事業者の方々にとっても非常に厳しい状況となっていることから、県といたしましては、みやぎ観光振興会議等を通じて、観光事業者の方々等の意見を伺いながら、適宜誘客促進に向けた県の施策に反映してまいります。</p> <p>また、仙台・宮城観光キャンペーンのキャッチコピーである「笑顔咲くたび 伊達な旅」についても、東日本大震災の被災地である宮城県として、これまで</p>

<p>組」は今後も継続させる必要があることから、計画にもその方向性をしっかりと盛り込む必要があると考えます。</p>	<p>全国からいただいた数多くの御支援に感謝し、お客様にも笑顔になっていただきたいという思いを忘れず、しっかりと継承していきたいと考えております。</p> <p>今回いただいた御意見を踏まえ、官民一体となった取組について、プラン25ページの成長戦略4に、「なお、誘客活動を進めるにあたっては、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会と連携して、引き続き官民一体となった取組を展開していきます。」と記載を追加いたしました。</p>
<p>2 ◆教育旅行誘致の強化に向けた取組について</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の拡大により、団体旅行が大きく減少する中、従来、関東方面を目的地として実施されていた教育旅行が宮城県に方面変更されている現状がある。東北域内からの変更は勿論のこと、東北域外では関東、関西、九州方面から、従来来県していなかった学校の増加傾向。</p> <p>○教育旅行は、近々の団体需要を確保できるだけではなく、長期的視点では、宮城のファンを増やし、将来の旅行客獲得、交流人口増加に繋がる。</p> <p>また、一度目的地に選ばれると、数年間継続した誘致を見込むことが出来ることや、観光関連事業者から農林水産事業者まですそ野の広い受け入れ先があり、教育旅行誘客は県産業全体へ波及効果があるカテゴリーの一つであると認識している。</p> <p>○これまでも、宮城県では教育旅行等コーディネート支援センターを設置し、SD</p>	<p>教育旅行の誘致については、みやぎ教育旅行等コーディネート支援センターを設置し、地域資源を活用した自然体験や食文化体験等、宮城ならではの教育旅行体験プログラムを造成し、県内外の学校からの受入環境を整備して参りました。</p> <p>その結果、県内や東北地方以外の遠方地から多くの受入相談や訪問をいただき、県といたしましても、県の魅力を伝える絶好の機会と捉え、取組に力を入れてきたところです。</p> <p>教育旅行の誘致は、御指摘のとおり、団体旅行客の獲得に繋がることに加え、宿泊施設の平日の稼働率向上や、将来的な関係人口の創出等の効果も期待できることから、引き続き宮城県が教育旅行先として選ばれるよう、体験プログラムの磨き上げや、PR、バス助成等に力を入れていくこととしており、プランにおいても、21ページの回復戦略に、「積極的に」推進する旨、記載を追加いたしま</p>

<p>G sに基づく探究学習や震災学習などの素材を活用し、誘致に当たっているが、第5期プランにおいても、教育旅行の誘致強化をしっかりと位置づけることが重要であると考えます。</p> <p>○2023年開催の全国緑化フェアなどは、教育旅行誘致の観点では、絶好の来県への動機付けとしては絶好のチャンスです。</p> <p>商品造成、バス助成などの検討と早期の発信があれば誘導も図れるかと思えます。</p>	<p>した。</p>
--	------------